

機関紙「TRAFFIC & BUSINESS」 100号を祝して

菊川 滋
国土交通省道路局長

財団法人道路新産業開発機構の機関誌「TRAFFIC & BUSINESS」が記念となる100号を迎えるに当たり一言お祝いを申し上げます。

貴機構は、昭和59年に官民協調による新しいシンクタンク機関として発足して以来、ITS（高度道路交通システム）を始め道路に関する新事業分野の調査研究を実施し、さらに、それらの成果に基づいて事業化を推し進めるための多くの団体の設立に関わる等、広範な事業活動を行ってこられました。主なものでは、ITSに関連してVICS、ETC、ITSスポットの実現や国際標準化活動を実施するとともに、官民パートナーシップによる連携を活用した都市再生事業への取り組みや低炭素型社会の構築に向けた次世代の道路交通サービスの具体化など、広範な事業活動に取り組んでいただきました。

現在、我が国は、本格的な人口減少、超高齢化社会、厳しい財政制約、国際競争の激化に加え、地球環境問題や震災を契機としたエネルギー制約等、これまでにない困難に直面しております。更に未曾有の大災害となった東日本大震災で浮き彫りとなった国土の脆弱性を克服することが求められております。これらの課題を克服し我が国の明るい将来を築くため、最も身近で基礎的な社会交通基盤である道路の今後の政策はどうあるべきか、既存の枠組みにとらわれず、柔軟かつ大胆な発想をもって幅広く検討することが必要です。

社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会においては、基本的な視点として、既存の道路を「賢く使う」視点を重視することや「道路の進化」を積極的に模索することなどが提言されたところです。これらの視点に対応するためには、貴機構におかれても、ITSスポットの普及促進とさらなる協調システムの開発、プローブ情報の道路マネジメント・管理への活用や、新たな道路利活用ニーズの実現に資する調査研究など、果たすべき役割は今後ますます高まるものと考えております。これまで貴機構が蓄積してきたノウハウ・官民の人脈を活かし、道路に関する新しい産業分野の創出、道路交通問題の解決、地域づくりへの一層の貢献を期待いたしますとともに、今後ますますのご発展を心より祈念申し上げ、私の挨拶といたします。